

有機薄膜デバイスコンソーシアム

Organic Thin-Film Device Consortium

■ ご挨拶 Greeting



山形大学有機薄膜デバイスコンソーシアムは、経済産業省委託事業「産学連携イノベーション促進事業」に採択された「山形大学有機デバイス産学コンソーシアム形成事業」における共同研究コンソーシアムの一つとして活動しております。

本コンソーシアムは、有機エレクトロニクス分野での新たな事業創出及び東北震災復興への貢献をめざし、参加企業と山形大学との連携を核に、「有機エレクトロニクス用ITO代替透明電極付きフレキシブル基板の実用化開発」を推進して参ります。

有機薄膜デバイスコンソーシアム 運営代表者 大場 好弘

■ 開発テーマと主な研究開発内容 R&D Subjects

- 「有機エレクトロニクス用ITO代替透明電極付きフレキシブル基板の実用化開発」
- ・有機EL、有機太陽電池、有機TFT等の有機エレクトロニクスデバイスに適用できるフレキシブル基板の開発
 - ・従来の一般的な透明電極であるITOに替わる透明電極の開発とフレキシブル基板への適用
 - ・ロールtoロール生産要素技術の開発

■ 開発期間 R&D Term

2013年4月1日～2016年3月31日

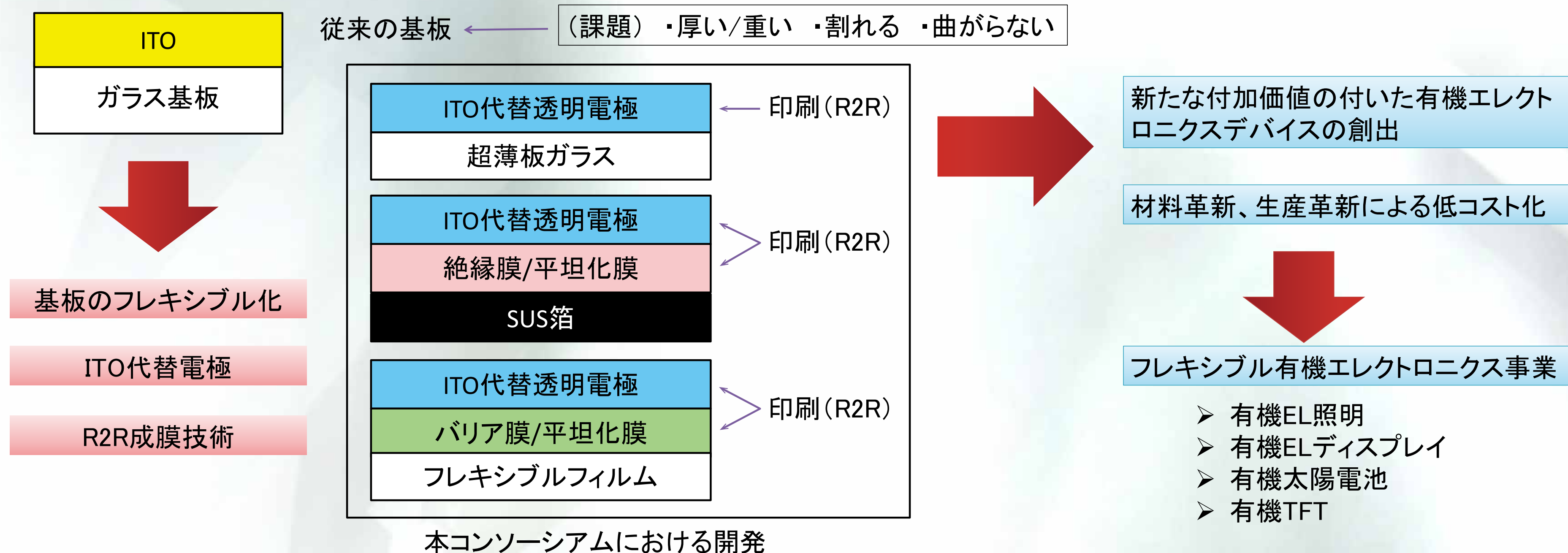
■ 参加企業 Participating Companies 2014年1月現在

AZエレクトロニックマテリアルズマニュファクチャリング株式会社
NECライティング株式会社
株式会社 カネカ
株式会社 神戸製鋼所
株式会社 小森マシナリー
JNC株式会社/JNC石油化学株式会社
信越化学工業株式会社
新日鐵住金株式会社/新日鐵住金マテリアルズ株式会社
大日本印刷 株式会社
株式会社 太陽機械製作所
DIC株式会社
帝人株式会社/帝人デュポンフィルム株式会社
デクセリアルズ株式会社
東海商事株式会社
日本ゼオン株式会社
日本電気硝子株式会社
株式会社 FEBACS
三菱マテリアル株式会社

■ ホームページ Website

<http://inoel.yz.yamagata-u.ac.jp/F-consortium/>

■ 本コンソーシアムにおける技術開発 R&D Contents



■ 本コンソーシアムの特徴 Features

- ✓ フレキシブル有機エレクトロニクス事業を拓くキーとなる「ITO代替透明電極付きフレキシブル基板」実用化技術を研究開発
- ✓ 異なる分野の会社が同一目標に向けて集結(基材メーカー、材料メーカー、印刷メーカー、装置メーカー、デバイスメーカー、等)
- ✓ 被災地域との連携、震災復興への貢献 ⇒ 被災地企業・公的機関・団体などとの連携推進
- ✓ 山形大学がコンソーシアムを主導⇒企業出身者の大学教職員が中心となってコンソーシアムを推進
- ✓ 独自装置を導入⇒ロールtoロール装置など

産学連携教授 向殿 充浩(プロジェクト長) koden@yz.yamagata-u.ac.jp
産学連携教授 仲田 仁(技術統括) nakada@yz.yamagata-u.ac.jp

■ 組織図 Organization

